

# トップメッセージ

## 環境管理から環境経営へ

J-POWERは、新経営計画において、民営化と自由化を踏まえ、「エネルギー」と「環境」という2分野を主力に、内・外市場を通じ、効率的で競争力の高い事業を展開することにより、民間企業としての新たな発展を図ることを表明しました。

その第一の理由は、新世紀における日本と世界の経済社会の持続可能な発展が、「エネルギー」と「環境」をキーワードに、両者の共生によってのみ実現するものであり、またそこに多様なビジネスチャンスが生まれることが明らかであるからです。

第二の理由は、J-POWERが創立以来50年間進めてきた電力エネルギーの開発・運用と、これに随伴する環境への影響を最小化するための努力が、エネルギーと環境の共生を図るために必要な技術的・経済的な事業上の経験と知見として、企業内部に蓄積してきているからです。

その意味で、J-POWERは、今後エネルギービジネスに伴う環境問題に対する取り組みを徹底的に強化し、地域レベルと地球レベルという二つの環境課題についてのより高いコアコンピタンスを内成化することによって、「エネルギー」と「環境」の両分野におけるグローバルなビジネスを推進していく決意をかためました。

そこで今後、私は、環境問題への取り組みについては、次の諸点に留意して行動していくことを基調に、環境経営ビジョンを明らかにしていきます。

第一に、環境問題は、エネルギー関連企業である当社にとって、企業外の事象ではなく、経営の内なる課題であることを認識し、環境保全対策とマネジメントを、本来事業の一環として実行していくこと。

第二に、環境問題については、単にJ-POWER本体のみならず、関係会社をふくめたJ-POWERグループ全体が一体的に対処することが不可欠であり、そのための体制整備を図ること。

第三に、環境保全対策とマネジメントに関連する情報については、企業のコンプライアンスにつながるものとして、情報公開を徹底し、その透明性を高め、社会的信頼を勝ち得ていくこと。

今年度、私は、このような視座に立脚し、「エネルギー」と「環境」の両分野において、独創的なオンリーワンビジネス・競争力の高いナンバーワンビジネス(商品)を創出していきたいと思いをします。

2003年8月

社長

中塚喜彦



デザイン名称「グローバルエッジ」

エネルギーと環境に関するさまざまな分野で世界に飛躍する企業であることを表現するために、地球をモチーフにした新たな形で「J-POWER」という名前をデザインしたものであり、「J」に接する弧線は地球の円弧の一部を表現しています。色彩については、溢れ出るエネルギー感と人間性に富んだ暖かみを表現する赤と、先端的な技術力や確かな信頼感を表すグレーを使用しています。



奥清津発電所にて発電状況の点検を行う伊藤康二  
(現在、開発電気機出向、小出事業所奥清津出張所所属)

## 2003 環境・社会行動レポートについて

発電所建設と運転を始めとした事業活動が、常に環境に影響を与えていることを深く認識してその影響を最小限にとどめ、その精神を「企業理念」に謳うとともに、電源開発環境方針を定め、全社をあげて環境保全活動を組織的に進め、継続的な改善を図ってきています。

今年3月に、2002年度活動実績の点検結果に基づき見直しを行ない、2003年度行動指針を定めました。

これまでの新事業分野の着実な推進とさらなる事業拡大を反映させるとともに、技術研究開発の推進や環境ビジネスの多角化が図られていることを受けて見直ししたものです。

また、「石炭火力平均熱効率」「硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)・窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)の排出原単位」などが改善されたことから、さらに高い定量目標を設定しました。

今回で6回目となるレポートについては、これまでの環境報告のあり方を抜本的に見直し、内容充実に努めました。その主な特徴は次の通りです。

第一に、他社の優れた考え方を徹底的に研究して、これまで環境保全活動を実施しているにも拘わらず、レポートで未公表または具体性がなかった事項について詳細に説明することに心掛けました。

第二に、透明性と信頼性を一層高めるため、マルチステークホルダーを意識して5人の第三者の方々の方々の視点より得た提言、レポートの読者の方々からのご意見を可能な限り反映いたしました。

第三に、持続可能性報告への充実に向け、社会とのかかわり・コンプライアンス・安全衛生などを新たに記載し「環境・社会行動レポート」といたしました。

以上を踏まえて、レイアウト、デザインなども刷新しましたので、どうかご一読のうえ、ご意見ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。



2003年8月

環境行動推進会議議長

常務取締役

大野 正道



京都メカニズムの活用について説明する中山寿美枝  
(経営企画部地球環境G)



中央給電指令所にて給電業務を行う田中正行  
(営業部中央給電指令所運用G)